

要望演題 | 1-18 川崎病・冠動脈・血管

要望演題12

川崎病・冠動脈・血管

座長:

荻野 廣太郎 (元関西医科大学香里病院)

深澤 隆治 (日本医科大学付属病院)

Fri. Jul 17, 2015 3:10 PM - 4:00 PM 第5会場 (1F アポロン A)

II-YB12-01~II-YB12-05

所属正式名称: 荻野廣太郎(元関西医科大学香里病院 小児科)、深澤隆治(日本医科大学付属病院 小児科)

[II-YB12-03]川崎病大量免疫グロブリン不応例におけるインフリキシマブ 投与51例の検討

○蜂谷 明¹, 赤澤 陽平¹, 元木 倫子¹, 柳沢 俊光¹, 小林 法元¹, 松崎 聡² (1.信州大学医学部 小児医学教室, 2.国立病院機構松本医療センター中信松本病院 小児科)

Keywords:川崎病, IVIG不応例, インフリキシマブ

【背景】近年、川崎病の大量免疫グロブリン(IVIG)不応例に対して、インフリキシマブ(IFX)の有効性が報告されている。【目的】当院における IVIG不応例に対する IFX投与の効果を明らかにする。【方法】2007年3月から2014年12月の間、当院で川崎病 IVIG不応例51例に対し IFXを投与した。IFX投与前にステロイドを投与した5例を除いた46例(年齢3ヵ月から7歳1ヵ月、平均 3.0 ± 1.8 歳、男27、女19)について診断病日、リスクスコア、IFX投与病日、冠動脈病変合併の有無、IFX副作用の有無を後方視的に検討した。【結果】診断病日 4.5 ± 1.2 日、IFX投与病日 9.5 ± 1.9 日、大阪スコア陽性22/37例、久留米スコア陽性23/41例、群馬スコア陽性28/41例であった。IFX不応例は13例あり、5例に対し血漿交換を行った。川崎病不全型2例はいずれも IFX不応であった。IFX投与後に3.0mm以上の冠動脈瘤を形成したものは18例あり、1ヵ月以内の退縮11例、1ヵ月以降の退縮5例、縮小傾向の残存2例であった。巨大冠動脈瘤の形成はなく、IFXの副作用は認めなかった。【考察】大量免疫グロブリン不応の川崎病46例に IFXを投与し、巨大冠動脈瘤の残存はなく、冠動脈瘤形成後も退縮、あるいは縮小傾向となっており投与中の副作用も認めなかった。安全かつ有効な治療であると考えられる。